

全 仏

1 / 55



年輪

明けましておめでとございませう。

一九八〇年、年輪を重ねて二十世紀もあますところ、あとわずか、この間、人類は二回にわたり、かつてない世界的な規模の大戦争を経験してきました。

廃仏毀釈の痛手から立ち直った仏教は、またまた大きな試練を乗り越えねばなりません。仏教者として、その根底から、生きざまをためされる日々をくぐりぬけてきたことは、つい昨日のような気がします。

今もお、世界の、アジアのどこかで、戦争と貧困の毎日がつけられていきます。世界でも有数の豊かな国となった日本、お互いさま、ますます兜の緒を締めて、二十一世紀を目指して年輪を刻もうではありませんか。

カンボジア難民救済の街頭
募金をする全仏青年
関係記事十四面

昭和55年1月1日

55年の年頭に思う

仏陀の根本精神に基づいて

全日本仏教会会長 大谷 光 真



大谷会長

あけましておめでとつございます。

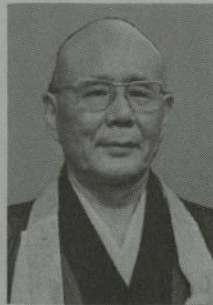
一九八〇年を迎えました。第十二回世界
仏教徒会議で話し合われた二十世紀は
次第に身近かなものとなってまいりまし
た。世の中はいよいよ予測が困難になっ
ています。世界情勢は今なお緊張の一途
をたどり、アジアの仏教国の中にも緊急
の支援を必要としている国々が少なくあ
りません。

国内においても政治の混沌、不安定な
経済情勢など混乱が続いています。特に
人権の問題は信教の自由とともに我々に
とって重大な問題であります。こうした
厳しい国際環境・国内情勢の中で、我々
は、自からの姿勢を正し、仏陀の根本精
神にもとづいて仏教徒としての生き方を
考えなければなりません。身近かな問題

から国際問題に至るまで、仏法の光に照
して活動することこそ仏陀の精神の具現

仏陀の慈愛基調に宗教協力

全日本仏教会理事長 町田 宗 夫



町田理事長

昭和五十五年の輝かしい新年を迎える
に当り、人類の和平と万邦の安寧を希い
併せて各位のご健勝を祈念申し上げます。

新しい年と共に、私共仏教徒の使命
と任務は、ますます重大であると痛感さ
せられます。

客夏、北米のプリンスストン神学校にお
いて、第三回世界宗教者平和会議が開催
され、これに参加して、「宗教者は何をな
すべきか」、「宗教の社会的責任とは何に

であると申せましょう。

なお、昨一九七九年は「ルンビニーの
年」と定められ、釈尊誕生地の地である
ルンビニーをすべての仏教徒の聖地とし
て復興するために援助が始められまし
た。今後も継続されるものであり、全世
界の仏教徒の中でも、我国の仏教徒の役
割は重いものと思われまふ。

新年を迎えた今、心を新たに、日
本のみならず、広く世界の友と手を携え
つつ努力したいと念じてやみません。

か」という、自身に対する厳しい問いか
けや、宗教者に課せられた役割と責任を、
実践的視点をふまえながら討議出来たこ
とは大きな収穫でありました。

わが国の仏教界にも数多くの教団や宗
派がありますが、しかし、人類の平和と
生命の尊厳を説かない教団は一つもない
はずであります。

日頃、仏教徒が一丸となって、社会の
要請に応えていくことの緊急事が叫ばれ
ておりますが、それにはまず、各教団の
相互理解の上で、共通する仏陀の慈愛を
基調にした宗教協力に、その実現の可能
性を信じるものであります。

年頭にあたり、本来の使命達成のため
各位の格段のご協力とご道愛を切にお願
い申し上げます。

謹賀新年

財団法人

全日本仏教会

会長 大谷 光 真

副会長 川田 聖 見

〃 出口 常 順

〃 山田 無 文

〃 中村 元

〃 町田 宗 夫

理事長 町田 宗 夫

常務理事 中里 徳 海

阿部 野 龍 正

林 亮 海

野村 宗 春

芝原 郷 音

宮部 幸 磨

岡田 己 成

桜井 大 乘

岩崎 鳳 栄

山本 杉

南谷 恵 澄

長谷川 靈 信

浅川 義 雄

岩橋 俊 正

千葉 昌 九

高島 廣 勝

80年代へ向けて

難民問題などに対処

国際専門委員長

柳 了堅

いよいよ八十年代となりました。全日本仏教会は、全国数千万の仏教徒の期待に応えて国内外の重要課題に対処していただきたいと思ひます。

当面の問題として、全世界がもつとも関心がもたれている悲惨なカンボジア難民の救援問題が人道、宗教の立場から考えても実に大きな課題であろうと思ひます。幸いこの問題について、全日本仏教青年会がいち早く救援活動をはじめたことを提唱され、実行にうつすことになったことは、まことに時宜を得たものであり、全機関をあげて募金活動を行い日本仏教徒の誠意を示すべきであると思ひます。

さらに多年の懸案であるルンビエー開発計画も、一昨年の世界仏教会会議の決議でもあり日本の仏教徒として出来得る限りの協力が必要であろうと思ひます。さらに各仏教諸国との交流親善に向一層の努力を期待するものであります。

国際専門委員会としての任務は、まことに大きいものがありますが、委員各位とともに全仏発展のため努力してまいり

たいと思ひます。

全仏宗の意気込みで

組織専門委員長

神野 真一

ある宗派の昨年の調査によると、宗内の任職に「いま何を一番学びたいか」という設問に対し、「宗学・仏教学」という回答は三割強しかなく、「檀家に何を知識って貰いたいかに対しては、「先祖供養と仏壇の祀り方」という回答が圧倒的であったという。これは果たして、この宗派だけの現象であろうか。

この実情を考えると、旧来の慣習によって寺院の檀信徒となつてゐる、わが国民の大半の教化には、根本仏教を基盤とした教化活動があつてもよい、と思はれてならない。それは決して、各宗各派の教化活動を脅かすものではなく、むしろ、各宗派本来の信仰へのアプローチとして必要なものと考ええる。

この点からして、慣習を同じうする地域社会に密着した地域仏教会の組織の確立こそ、八〇年代の仏法興隆への礎石であると確信する。全仏は「全仏宗」開宗の意気込みで、都道府県仏教会の組織の拡充に力を借し、各宗各派は潜在的信徒の顕在化のために、物心両面の援助を与

仏教はどう対処する？

文化専門委員長

真 溪 義 貫

一九八〇年の初頭にあたつて思うことは、もうすぐ二十一世紀を迎えるということである。われわれは仏教の立場から未来社会（特に二十一世紀）についてシンポジウムなどを催して真剣に討議して来た。

人口の激増、資源の枯渇、食糧の不足、それに色々な公害の増大（従つて自然生態の変化）などを思い合せるとき、人類生存に悪条件が充満している。しかし一方、医学の進歩、特に生命科学の驚異的な発展に伴つて人間の寿命は益々延長され、いわゆる高齢化社会の到来は必至である。

八十年代の仏教はこのような社会にどう対応するのか。少なくとも従来そのままの仏教界であつてはならないことだけは明かである。科学技術の進展は湯々速度を早め、もはや人間はこれに応じてゆけなくなるであろう。宗教は科学の守備範囲と異なる世界であるという考え方は、今や前世紀的な発想である。むしろ、科学の進歩は物質と精神の相互作用の詳細な研究にむけられている。八十年代の仏教はこのような指向に対応することに努めるべきである。科学原理は無色である。この原理を人間のためのものにするこそ宗教の使命である。

岩	植	佐	横	大	土	浅	松
協	松	藤	井	石	持	井	浦
宏	威	覚	鶴	好	良	善	勝
信	成	雄	州	文	栄	応	道
			花	川	広	永	沼
	船		田	口	川	井	田
	口		英	良	芳	孝	恵
	暉		忠	信	雄	道	範
	子						

事務総局

東京都港区芝公園四ノ七ノ十三
千一〇五〇三四三七九二七五

- 事務総長 鱒 淵 正 浩
- 事務次長 安 藤 義 祐
- 総務局長 加 藤 海 晃
- 組織局長 龍 山 哲 成
- 国際文化局長 安 本 利 正
- 全仏派遣員駐在員
WFB総務局長
他 職 員 小 谷 龜 太 郎

関西事務局

京都市下京区大宮通七条上ル
千六〇〇〇七五三七一五一八一

- 事務総長 平 興 馨
- 組織部長 千 坂 精 道
- 国際部長 小 沢 照 禱
- 文化部長 小 林 忍 戒
- 教化部長 梶 原 隆 也
- 審議部長 広 島 昭 応
- 総務部長 小 泉 宗 和
- 他 職 員 一 同

座談会

全仏大会の今後のあり方



【出席者】

小峰令丸師 第二十三回兵庫大会、第二十四回三重大会担当、全仏前組織部長。

柳 了堅師 第二十五回埼玉大会事務局長、全仏国際専門委員長。

小原泰寿師 第二十六回茨城大会実行委員長、茨城県仏事務局長。

神野真一師 全仏組織専門委員長、第二十六回茨城大会幹事長。
(司会) 田代弘興全仏組織部長

会場は仏教的雰囲気の中で

司会 本日は法務で多忙のところありますがどうございます。さっそくですが、全日本仏教徒会議のあり方につきましてお話しを伺いたいと思っております。第二十三、二十四回が小峰先生、二十五回が柳先生、二十六回が小原先生、それに担当の組織専門委員長として神野先生というわけで、最初に大会の回想というか、苦勞話のようなお話しをいただき、そ

の後に、仏教徒会議の方向、あり方などをお話し合いいただけたらと思います。では小峰先生に口火を切っていただいて、話題となった「黒い法要」などのお話しも伺えればと思います。
小峰 組織部で直接手がけたのは兵庫と三重ですが、その前の池上と京都も関わりをもっています。
司会 もう大ベテランですね。(笑)

小峰 まあ、三重のときは黒い法要ということが反響を呼び、TV、新聞とすごかったですね。物々しい警戒の中で、緊張を覚えたのが印象ですね。また、地域社会との関わりの中で寺が存在するのだという時代性も問われました。

司会 大会の在り方はどうでしたか。
小峰 地元担当者のご熱意は大変なもので、全仏の立場を盛り上げて下さったりで感謝しています。それと、これからは翌年とか二年先でなく、もう少し先の関わり方を全仏では持つべきだと思いますね。残念ながら全仏の担当部長が任期でやめたり異動があるでしょう。目標を先において血の通った大会でないといえ長続きしませんね。

柳 たしかにその通りですね。私は全仏に関係させて頂いて長いんですよ。第一回の高野山大会は私たちが企画したんですから…。

司会 そうですか？もう主ですね。(笑)
柳 まあ、そんなことか、いろいろあって埼玉大会の事務の執行をやることになったんですが…大会を受けることにも意見が相当あったんです。そこで長いこと全仏に関係してましたが、今度は実際に自分でやらなくてはならないので苦勞はありました。しかし埼玉の機構が強力にできているのでよかったです。

司会 準備会議もかなりやられたようですね。

柳 やりましたよ。まず眠っている信仰運動の堀起し、それと教化集団としての大会にする、また埼玉百年史を出すなどよく話し合いました。その結果、頭でっかちの見物だけでなしに、毎年継続していくということ、県仏大会を開き、県下の仏教意識向上につとめるようになり盛り上っています。まあ、世界大会の前奏曲として非常に盛り上った大会だったと思います。おそらく県下寺院の皆さんは大会をやってよかったと思われていると思います。

司会 続けて第二十六回の茨城大会を終えたばかりの小原先生、大変ご苦勞さまでした。

小原 皆様のご協力で何とか格好はつけたのですが、その成果はこれからですね。正直いって埼玉大会のとき、次回を引き受けてきたというので内心ビクビクしたんです。(笑)まあ二年あるからということでしたが、茨城県仏は臨終とまでとはいきませんが、それに近い状態でしたからね。大会開催は大会長長の熱情にはだされたというのが本心です。しかし県内は無任の寺も多く、会議を開いてもなかなか人が集まらない、ということで苦勞しました。

司会 お金を集めるにも大変な苦勞があったと聞いていますが…。

小原 とにかく反心がないんですよ。予算だけはとにかく集めようと、歩いて回ったんですが、御本山は全く、大寺も

あまりないので金集めだけで精魂つきは
てたというのが実感です。

柳 いや、どの大会でもお金を集め
るといことは大変なことですよ。茨城
さんの苦労がよくわかりますね。

小原 その他の準備もあり、大会はぶ
っつけ仕事もありました。さいわい満席
でよく集まってくれたと感謝しておりま
す。埼玉さんでは、大会を契機にいろい
ろ強化活動が実をむすんでおりますが、
こちらはすべてこれからです。

神野 本当にご苦労さまでした。実に
良い大会でしたよ。(拍手)

司会 大会のお話しを伺いましたが、
大会の内容、在り方についてお話しをい
たいただきたいと思ひます。

小峰 県内に大本山などがあれば、た
とえば三重は高田派の本山で開かれま
したが、できればああいふ宗教的な雰囲気
の中で開、閉会式ができる理想的です
ね。

神野 以前は各本山で持ち回りでし
たが、ああいふことも必要ですね。

小峰 世間でいう大会は、物を要求し
たりする、とげとげしいものがあるでし
ょう。やはり仏教徒大会というのは本堂
の中でという気がしますね。

小原 茨城では舞台をつりましたが
(市民会館ホール)、雰囲気がないです
ね。特に檀信徒には仏教的建物が必要だ
と思ひます。

柳 私の方も会場の問題は考えまし
たよ。一万人位入れる大きな会場とか、
お寺でやろうとかありましたが、地域的

なこともあります。中央部とか、交通の
便とか。埼玉の場合は参加申し込みが
多くなって断つたりしました。

小峰 我々はスムーズにいくことを考
えたりして大ホールにしたりしますが、
檀信徒にとってはお寺でやるということ
が喜びですね。埼玉さんとか茨城さんの

五年周期の全仏大会縮少論

柳 はじめの頃はみなお寺ですね。

神野 そう、九回目までは大本山中心
で、第十回の静岡がマンモス大会の走り
となった。そしてマンモス大会は五年に
一回位づつ反省させられて、例えば名古屋、
岐阜、岡山までいって反省がでる。

次が成田山で教師中心。それから長岡、
四国、青森、池上など大きな大会で、次
の京都は小規模。そのあと兵庫から茨城
までも大きな大会で、次がまた受け手が
ない。五年周期として、ここ十五年程は
大きく花が咲いては休むということ、
三山乗り越えてきたわけですね。

柳 過去の大会をみて、ローカル色
がでたり、大きな大会、小さい大会もあ

ようにない所はできませんからね。

小原 私共は慣れているので、檀信徒
の方も会館でやればいいのではないかと
考えてしまひますね。

神野 鉄筋コンクリートの会場でどう
盛り上げようかと、設備費に相当な額を
投入してしますね。

つたし、地方の特色があつて面白いと思
ひますね。

司会 日本の経済状況を反映している
ところもあるんじゃないですか。たと
えばテーマをみると、人類の不安に御仏
の光を。高度成長が終つた時代ですよ
ね。そろそろ不況が。...

神野 京都はオイルショックで小さく
なつてしまつた(笑い)。

司会 そういう社会的影響もあるんじ
やないですか。

神野 私は全仏専門委員として、各大
会の役員として参加させていたのだが、
自分で苦労した経験に乏しいわけ
ですが、一つ考えさせられるのは、地元の
新聞、放送などマスコミにアピールする
かということが全仏の一つの目標であつ
たように受けとれるんですね。そのため
に大臣を呼んだり、大使をよんだりして
いるのですが、兵庫、三重のように時流
にマッチしたテーマなら、むこうから飛
びついてくるわけですね。もちろんマス
コミにPRする大会が必要かどうかは別
問題として...



柳 了堅師

柳 これからはこれをどうするかも大
事なことですね。

司会 いろいろお話しを伺ひましたが
組織専門委員会でも、大会について討議
していますので、委員長さんから簡単に説
明をしていただきたいと思ひます。



神野真一師

神野 茨城大会を踏まえて、来年の大
会、あるいは今後どうするかということ
で開かれたわけですね。事前にアンケート
をとりまして、大会の在り方、見直しな
ど参考資料として討議をしたのですが、
まず一点は実力ある県仏さんは大体一回
りしたのではないかといいことです。し
たがって余程開拓しないと県仏主体は難
かしいのではという見直しでした。中
には全仏が主導権をもってやれという意見
もでしたが、そうすると全仏がお金を
うんと出さなくてはならないことになり
不可能なことです。次に何のために全仏
大会をやるかということで、組織強化や
県民の信仰心高揚が重要点ですが、費用
の膨張にもなつて檀信徒部会が必要な
のかという意見もりました。また今後ど
うしたらいいかということで、檀信徒も
含めた教師中心の大会、そして組織強化

につながる大会へという話しもたされま
した。そこで昔は大宗門から議題が出
され、それを討議するという形であつた
が最近ほとんどない、宗派の方々が一
緒に討議の場に出たいただける持ち方も
考えなくてはいけないという意見もあり
ました。

司会 主導権の問題が出ましたが。
小峰 やっぱり地元のやりやすい方法
でやるのが筋でしょうね。また人数を動

檀信徒部会は信仰の種まき



小峰令丸師

小峰 それはやむを得ないと思いま
すね。檀信徒の参加は、意識を高揚させる
種まき運動として必要だと思います。

柳 実力ある県仏は一回りしたとい
いますが、残っている県仏さんでは是非
やるべきだと思いますね。どうしても駄
目な場合は、全日本仏教徒会議を定款に
入れて、全仏でどうしてもやらなくては
ならない事業として、内容を高め総評の
大会ぐらいいもっていくべきである。そ
して各宗、団体が出て、そこで決つたも
のは重要な問題として、内外ともに取り

員するだけで意味はあるし、檀信徒の参
加は地元の檀信徒の仲間が可能だとい
う意味もありますよ。
小原 茨城大会では、割り当てられて
参加した檀信徒ですから、何をやってい
るのかわからないということもあります
けど、地域の実情にもよりますね。
司会 そうですね。長岡、鳴門などで
は非常に熱心で格差がかなりあるように
思いましたか。

上げていかななくてはならないと思うし、
全仏がその年の運動方針として、これで
いくんだというものになれば、数は少な
くても全日本仏教徒会議の意義があると
思えますね。また費用の問題も出ました
がその金をかけずともやっていけるんじ
やないですか。
神野 成田山大会の後に同じような発
言がありましたか、柳先生のお話したと
また檀信徒部会の入る余裕はなくなりま

未開催県仏はやるべきだ

神野 ただ地方に行きますと、その全
仏すら知らない寺院がありますよ。全仏
有用論を持ち出させるような大会、残っ
ている県仏さんでやるとすればそこでは
ないかと思えます。

小峰 そうですね。大会はやはりそこ
に意義があるんじゃないですか。
小原 茨城でもそうですね。全仏なん

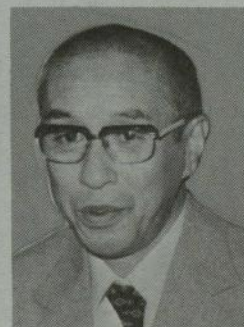
すか。
柳 檀信徒部会はやりますよ。
神野 そうすると全仏大会と檀信徒部
会は二本立てにしないか。成田山のと
きも、本年度の施政方針演説をして、そ
れを部会にわけてやるという方法が出て
ます。
司会 残った県仏はやるべきだ、とい
う意見もありますが、県仏の組織の問題
がでてきますね。

小峰 やっぱり会長さんの熱意じゃな
いですか。兵庫、三重ともに役員さんが
燃えてくれましたね。親方が号令かけて
燃えれば、皆が結集する、大事な全仏的
な運動だと思いますね。
柳 それには全仏がやりやすいよう
に企画を決めて……
神野 やはり小さくもっていかないと
受けられないでしょう。
小峰 それ以上こちらから枠をつくつ
てはまずいですね。それぞれの事情にあ
わせ、我々は側面的にできる範囲の応援
をやるのがいいですね。

未開催県仏はやるべきだ

て全然しらないという……。(笑い)全仏
なんてあってもなくても関係ないんです
よ。その点では県仏の存在すら危いん
です。全仏の存在もPRになったし、檀
信徒が多数集まったのも茨城では初めて
のことで、どんな形でも一カ所に集まっ
たことは一つの成果だと思います。また
仏書も結成しようという気運もできて

ことは大きな成果ですよ。
司会 内容面の、例えば式典がどうの
とか、講師の問題とかを考えますと、非
常にむずかしくなってきましたので、き
うはこのあたりで、委員長さん一つ総括
をして下さい。
神野 大変有意義なお話しを伺った
わけですが、会場の問題、檀信徒部会、
費用、県仏の組織や大会のあり方、見直
しなど問題は山積みなのですが、まず
大会に参加した者が、共同の責任におい
て採決されたものに、それぞれがその気
持ちにならないと、大会の意義が薄れま
すね。と同じに全仏大会は、県仏の組織
強化、県民の信仰心高揚というお話しが
出されましたが、各宗代表も同じ討議場
で、この県はどういうことを考えている
のか、この地方ではどういふ問題がある
のだからということも認識していただき
たいと思えますね。
司会 ありがとうございます。また
まだ伺いたいこともたくさんあるのです
が、本日はここで終らせていただきます
と思えます。



小原泰寿師

ことは大きな成果ですよ。
司会 内容面の、例えば式典がどうの
とか、講師の問題とかを考えますと、非
常にむずかしくなってきましたので、き
うはこのあたりで、委員長さん一つ総括
をして下さい。
神野 大変有意義なお話しを伺った
わけですが、会場の問題、檀信徒部会、
費用、県仏の組織や大会のあり方、見直
しなど問題は山積みなのですが、まず
大会に参加した者が、共同の責任におい
て採決されたものに、それぞれがその気
持ちにならないと、大会の意義が薄れま
すね。と同じに全仏大会は、県仏の組織
強化、県民の信仰心高揚というお話しが
出されましたが、各宗代表も同じ討議場
で、この県はどういうことを考えている
のか、この地方ではどういふ問題がある
のだからということも認識していただき
たいと思えますね。
司会 ありがとうございます。また
まだ伺いたいこともたくさんあるのです
が、本日はここで終らせていただきます
と思えます。

ジャパンホーム 寄贈

日本仏教徒の慈悲の実践行

世連仏事務局長 郡司 博道

チベットのダラムシャラ 難民・孤児のために

全仏誌五月号に掲載された「ダライ・ラマ殿下を訪ねて」

の中で、日本仏教徒の慈悲の証しとして世連仏より提唱された難民、孤児ジャパンホーム・ジャパンセンターの寄贈が仏教界の有志の御芳志

により、実現の運びとなった。第二回ダラムシャラ世連仏派遣団が、去る十月二十日より二十四日までのダラムシャラ滞在中に、チベット亡命政権のツツェンニチェ総理大臣、ミセス・ベマ・ギャルポ学園長との間で建設地、設計、寄贈額、起工、完工の日程が左記のように合意された。

いづれも今年起工

(一) ジャパンホーム

建設地―学園本部の左下の斜面(平たんに造成)、規模―二十坪、寄贈額―一

万ドル、起工―五十五年三月、完工―五十五年八月

(二) ジャパンセンター

建設地―難民学校グラウンド北正面の台上、規模―鉄骨百四十坪、四階建て(大講堂、体育館、各文化教室の総合施設)寄贈額―一五万ドル、起工―五十五年十月、完工―五十六年七月

ジャパンホームは、世界各国寄贈の孤児ホームの三千番目にあたる。寄贈の一万ドルは世連仏の提唱に賛同された真言宗十八総本山(各山会)の単独寄進。

ジャパンセンターは、全力をあげて目下募財中であり、すでに仏教界有志個人による寄付額三百万円が集まっている。今後は各宗派、大本山、仏教諸団体に募財を呼びかけることになっている。大いに成果が期待される。

ジャパンホーム、ジャパンセンターの合計寄贈額六万ドルは、亡命政権が過去二十年間、世界各国より寄進された年間総額の最高一三〇〇万円を超える額である。とくにジャパンセンターの寄贈は、在インドチベット人だけでなく、全イン

ド人に多大の感銘を与えている。(インド最大の月刊誌・インディアンツデイも取材した)

教法守ったチベット

昨今、日中友好ムードの中で、チベット問題は不当に歪められて報道されていることは、はなはだ残念なことである。残りの誌面にて、日本とチベットの関係について、忘れてはならない事実を列挙してみたい。

(一) 八年に亘る日支事変(事実上戦争)大陸戦場には一人のチベット人も参加していない。従って戦死傷者0。このことは、チベットが独立国であったことを証明している。

(二) 大東亜戦争になってから、仏、印、ビルマの援將ルートを日本軍に遮断された連合国の盟主、アメリカ大統領ルーズベルトは、特使をもってチベットの首都ラサに派遣し、インド、チベット經由の空陸による援將ルートの承認をチベット政府に要請したが、ダライ・ラマ殿下のお名のもと、①チベットは仏陀の教法を信奉する国である。不殺生の戒律を犯す人殺しの武器、弾薬を通すことは同意できない。②この戦争にはチベットは厳正中立の立場にある。③戦場で傷ついた日支両軍の兵士のため、赤十字の医薬品輸送は喜んで協力する。以上の三項目を最終回答とした。一九四一年のことである。

一九四五年、戦争終結までの四年間、

チベットルートによる武器、弾薬の供与が行なわれていたら、日本の何十万もの兵士の血が更に流されていたことであろう。日本軍兵士の命を救ったものは、仏陀の不殺生の教法であり、ダライ・ラマ殿下の断固たる決断であった。

(三) 大戦争末期、日・独両国と交戦していた連合国は、勝利を確信した段階で、戦後の平和維持機構として国際連合の構想を持った。中立各国は、連合国の要請により、日・独両国に一方的に宣戦布告し国連加盟の有資格国の座を得た。この時対日独宣戦布告を拒否し、加盟の座をあえて得ようとしなかったのは、たった二カ国で、それがスイスとチベットであった。

四一九五〇年、北鮮の南鮮侵入と同時に中国軍がチベットに侵入を開始した。韓国は、駐留国連軍存在のおかげで独立を保ち得た。チベットは①に述べた理由により、国連加盟国でなかったためその国連に対する救援要請は結果として無視され、その独立を失った。

以上の四つの事実について思いを凝らすとき、同じく仏陀の教法を信仰する日本仏教徒は、チベットの人々の、今日の苦難の立場について、全腔の同情を抱かすにはおられないであろう。世連仏のジャパンホーム、ジャパンセンター寄贈の提唱は、慈悲の実践として仏陀の教法に殉じたチベット人に大きな勇気を与えるであろう。仏陀はチベット人を見捨てない。我々仏教徒が慈悲の実践を断固として実践する限り、

謹 賀 新 年

浄土真宗本願寺派

門 主 大 谷 光 真

總 長 豐 原 大 潤

總 務 川 野 三 曉

渡 辺 静 波

藤 音 晃 祐

平 興 誓

大 河 内 浩 爾

京都市下京区堀川通花屋町下ル
本願寺門前町
〒600 〇七五(三七一)五一八一

高野山真言宗

総本山金剛峯寺

弘法大師御入定千五百十年

御遠忌大法会事務局

座主・管長・総裁 高峰 秀海

宗務総長・総 監 阿部野竜正

副総監 麻生 恵光

総務部長・常務理事 盛川 光範

財務部長・常務理事 稲葉 義猛

山林部長・常務理事 伊勢木俊範

教学部長・常務理事 島田 信了

法会部長・常務理事 辻 徹秀

常務理事 和田 有玄

企画室長・常務理事 北川 智城

常務理事 井上 寿戒

内事長 生地 本清

奥之院維那 福井 設了

伽藍維那 長谷川明彦

和歌山県伊都郡高野町高野山
〒648-02 〇七三六五(六)一〇一一

総本山醍醐寺

真言宗醍醐派宗務本庁

管座 長 岡 田 宥 秀

執行長 岩 城 秀 雄
宗務総長

執行長 大 沢 自 聚
宗務総長

執行長 斎 藤 明 道
教学部長

執行長 水 守 俊 英
財務部長

京都市伏見区醍醐東大路二二
〒601-13 〇七五(五七)一〇〇〇二一

新義真言宗々務所

総本山根来寺

主管 長 加 藤 太 信

宗務総長 広 沢 純 孝

根来寺 寺務長 田 村 海 寂

和歌山県那賀郡岩出町
〒649-02 〇七三六六(二)一四四

妙見宗宗務本庁

管 長 野 間 秀 泉

宗務総長 青 木 法 鷹

大阪府豊能郡能勢町野間中七二八
〒563-01 〇七二七(三七)〇〇二八

謹 賀 新 年

真言宗豊山派宗務所

管 長 川 田 聖 見
 宗務総長 林 亮 海
 総務部長 久 保 埜 太 清
 教化部長 門 屋 大 寿
 教務部長 吉 田 俊 誉
 財務部長 岩 脇 宏 信
 弘法大師千五百五十年
 御遠忌記念事業事務局
 東京都文京区大塚五の四〇の八
 〒112 〇三(九四五)〇六三九

真言宗御室派宗務所

総本山 仁 和 寺

京都市右京区御室大内三十三
 〒616 〇七五(四六一)一一五五
 門管 跡 立 部 瑞 祐
 宗務総長 本 山 完 海
 執行長 本 山 完 海
 庶務部長 市 橋 真 弘
 教務部長 和 田 仁 雅
 財務部長 西 本 善 雄
 華務長 手 嶋 千 俊
 御忌事務局長 本 山 完 海
 〃 次長 大 林 実 昭

真言宗国分寺派

大本山国分寺

座管 主 長 西 口 公 教
 宗務総長 足 立 有 教
 大阪市大淀区国分寺一の六の十八
 〒531 〇六(三五二)五六八三七

財団法人

国際仏教興隆協会

理事長 巖 谷 勝 雄
 役員 一 同
 東京都目黒区中目黒五十一四一五三
 祐天寺内
 〒153 〇三(七一)七六〇八

孝 道 教 団

統 理 岡 野 正 貫
 副統理 岡 野 隣 子
 横浜市神奈川区鳥越三八
 〒221 〇四五(四三二)二二〇一

念法真教教団
 総本山金剛寺

灯 主 小 倉 靈 現
 大阪市鶴見区緑三十四一三二
 〒538 〇六(九一一)二二〇一

年 新 賀 謹

三重県仏教会

会 長 常磐井 堯 祺
副会長 常磐井 鸞 猷
" 花 山 顕 勝
理事長 高 島 広 勝
事務局主任 鷹 坂 秀 亨
三重県津市一身田町
真宗高田派宗務院内
〒514-0105 九二(三三)四一七一

兵庫県仏教会

会 長 小 西 日 静
副会長 大 谷 昭 世
" 雲 井 弘 善
事務局局長 豊 島 正 典
事務局総務 小 西 徹 龍
庶務担当 円 成 淳 龍
財務担当 青 柳 泰 見
神戸市兵庫区松本通三二一-8
法華寺内
〒652 〇七八(五二)一六六八

真言宗善通寺派
総本山善通寺

管 長 主 蓮 生 善 隆
法 務 長 阿 部 本 宣
宗務総長 阿 部 本 宣
執行長 阿 部 本 宣
総 務 山 地 善 真
香川県善通寺市善通寺町六一五
〒765 〇八七七(六二)〇一一一

浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

管 長 伴 義 台
宗務総長 山 本 勝 隆
総務部長 鶴 飼 慶 範
教学部長 伊 藤 玄 法
本山部長 中 村 恵 龍
京都市中京区新京極六角下ル
桜之町四五三
〒604-0755 (三二)〇九五八

真言宗大鳴派

管 長 東 条 仁 進
宗務長 帶 盛 竜 応
財務部長 東 条 仁 哲
修験道部長 橋 本 隆 雄
大阪府泉佐野市大木八
大鳴山七宝滝寺内
〒590-0407 二四(五九)七〇四三

信貴山真言宗

総本山 朝護孫子寺
管 長 田 中 真 弘
前管長 鈴 木 鳳 永
元管長 野 沢 密 厳
宗務長 田 中 真 瑞
奈良県生駒郡平群町信貴畑二二八〇
〒636 〇七四五(七二)二二七七

年 新 賀 謹

青森県仏教会

会 長 本間 義博
副会長 上田 頼石
小山田 鳳隆
村 田 孝 憲
三 国 修 全
藤 野 護
飯 田 吉 盛
岩 間 文 雄
青森市本町一―五―五蓮心寺内
〒030 〇一七七(七六)三八七二

茨城県仏教会

会 長 大越 孝仁
副会長 秋元 義雄
" 牧田 実栄
" 小林 栄雄
" 土肥 浩
" 中村 純崇
事務局長 小原 泰寿
次 長 猪瀬 宝山
外顧問 理事 評議員一同
本 部
茨城県多賀郡十王町友部一九九〇
〒319-13 〇一九(Kiri)1051
事務局
水戸市八幡町十一の六九祇園寺内
〒310 〇五二(二二)五三九

東寺真言宗

管 長 鷲尾 隆輝
宗務総長 木田 宥岳
京都市南区九条町一番地
〒601 〇七五(六七)二二七

曹洞宗大本山
総持寺

貫 首 乙川 瑾映
横浜市鶴見区鶴見二―一―一
〒230 〇四五(五八)六〇二二

京都市 京都府 仏教会

会 長 伴 義台
副会長 横井 鶴洲
" 葉上 照澄
理事長 小林 忍戒
事務局長 宮城 泰年
京都市中京区東洞院通三条下ル
住心院内
〒604 〇七五(二二)八五九八

財団法人
埼玉県佛教会

会 長 岩崎 鳳栄
副会長 山本 道隆
" 江連 俊則
専務理事 河野 亮永
浦和市高砂四―十三―十八
埼玉会館
〒336 〇四八(八六)二二三八

年 新 賀 謹

真言宗豊山派

総本山 長谷寺

化主 川田 聖見

事務長 永見 聖宏

総務執事 二神 瑞巖

法務 清水 有神

教務 小川 又信

財務 川俣 海淳

出張所長 東京 島村 智堂

外職員 一同

奈良県桜井市初瀬町七三二の一
〒633-0107 四四(七)七〇〇一

真言宗智山派大本山

川崎大師平間寺

貫首 高橋 隆天

院代原 教運

執事 茂木 隆応

総務 馬本 克美

川崎市川崎区大師町四一四八
〒210-0440 二六〇三四二〇

浄土真宗本願寺派

築地別院

輪番 芝原 郷音

副輪番 藤本 龍珠

副輪番 龍山 哲成

中央区築地三の十五の一
〒104-0354 一三三二

社団法人

全日本仏教婦人連盟

会長 大谷 智子

副会長 一条 智光

理事長 山本 杉

事務局長 船口 暉子

事務局

東京都世田谷区桜上水四一九七
〒158-0333 三〇二一 一五九八

真言宗智山派大本山

成田山新勝寺

貫首 松田 照應

千葉県成田市成田一
〒285-0476 三二二二一

修験道大本山

高尾山薬王院

貫首 山本 秀順

東京都八王子市高尾町二二七七
〒193-0426 六六一二 一一五

日光山輪王寺

門跡 柴田 昌源

栃木県日光市山内二二三〇〇
〒321-1400 二八八(四)〇五三一

年 新 賀 謹

日蓮宗宗務院

管 長 望 月 日 滋
 宗務総長 松 村 寿 顕
 総務部長 吉 田 文 堯
 庶務部長 豊 田 英 世
 財務部長 石 井 隆 教
 教務部長 風 間 円 静
 護 法 部 長 金 山 寛 成
 新聞部長 中 村 正 彦
 遠 忌 持 田 貫 宣
 事務局長

東京都大田区池上一三二五
 〒146 〇三(七五)七二八一

財団法人

仏教伝道協会

会 長 沼 田 恵 範
 理事長 宮 本 正 尊
 理 事 中 村 元
 " 雲 藤 義 道
 " 松 原 泰 道
 " 芝 原 郷 音
 " 高 辻 恵 雄
 " 沼 田 恵 範
 常務理事 沼 田 恵 範
 監 事 芝 田 徹 男
 " 坂 東 環 城
 " 三 原 信 一

東京都港区芝四の三の十四
 〒108 〇三(四五)五八五一

真言宗中山寺派

大本山 中山寺

宝塚市中山寺二の十一の一
 〒665 〇七九七(八六)六五二七

財団法人

日本仏教鑽仰会

理事長 中山 理々

東京都千代田区内神田二五十六
 亀田ビル内
 〒101 〇三(二五六)四九二一

(財)世界平和同願会

理事長 山 崎 良 順

長野県諏訪市霧ヶ峰強清水
 一三三三三八一七
 電話〇二六六五(三)四四五五



親と子の 仏典童話

著者・花岡大学 発行・小学館

仏典童話の第一人者である花岡大学氏の、いままでの作品の総大成されたもので、むずかしい術語や論議を取り去って子どもたちの読みやすいもので、思いやりを美しく豊かに語りかける、愛にみちた童話集である。定価一八〇〇円で、プレゼントなどにも最適であろうかと思える。全日本仏教会や日仏保、全日仏婦などが推薦している。

豪華写真集 印度 全三巻

発行・毎日コミュニケーションズ

毎日コミュニケーションズより刊行された写真集「印度」全三巻は、まさにお釈迦さまの「絵で見る伝記」といえる。全仏とも関係の深い、写真家・松本栄一氏がインドに住んで三年余、単にインドを断片的にとらえることなく、インドの全体像を見事に描いた写真集であり、我々仏教徒としても、交通不便のため行くことのできない仏跡の写真などを身近かに見ることが出来る。第一巻は仏陀の道、第二巻は刻まれた祈り、第三巻は豊饒の世界からなり、解説の執筆陣もすばらしい。現金価格五万七千円、四回分割五万八千四百円、十回分割六万三百円。発売は毎日コミュニケーションズ販売であつた。電二一―二五三五。

カンボジア難民救済

全日仏青が街頭募金活動

カンボジア難民の窮状を救うため、仏教徒としての宗教的立場と人道的見地により、全日本仏教青年会（永倉嘉文理事長）が、救済活動として募金することを決議し、早速具体的活動に乗り出した。

第二十六回全仏茨城大会において「カンボジア仏教徒を支援しよう」という提案が、それぞれの団体の性格により支援するということで採択されたが、全日仏青でも臨時理事会を開催して決議した。



カンボジア難民の惨情を訴える
内藤泰子さんと永倉理事長

十二月十一日、十二日の両日には、寒風の中、浅草寺境内において街頭募金を行なった。永倉理事長、摩尼理事など全日仏青執行部に、東京仏青、浄土仏青、日蓮宗青年会など多数が出仕して、カンボジア難民に救援募金と呼びかけた。

内藤泰子さんも応援

また十二日には、カンボジアより奇跡の帰国をされた内藤泰子さんも、講演などの忙がしい日程をさいて募金活動に協力、一緒に街頭に立つてカンボジアの悲惨な現状を訴えた。募金は参詣者からのものが多いが、中にはアメリカ、タイなど外人旅行者の喜捨もあり、ドルやバーツなども混っている。

募金後、浅草寺事務所にて塩入亮達部長や全日仏青、東京仏青の代表と内藤さんが懇談し、苦しかったカンボジアでの生活を語った。内藤さんはすっかりお元気があったが、苦しい生活の中ではよく観音様の夢をみたということで、浅草寺より観音御影を贈られると、ちよとお子さんの亡くなられた十二日の命日というところで涙ぐまれた。

特に話の中では、「日記はたえずバスポートと共に隠しつづけた。日記は主

人が亡くなり語りかける相手と思って書きつづけたが、主人はすまないといって亡くなりましたと涙ながらに語り、「食べるものは大きなむかでや、野ネズミのスープでした」という、本当に苦しかった実態も聞くことができた。また救援活動については、「日本という国をスーパーマンのように思っている。その国の救いを待っています。しかし救援物資が国の中の方へどれだけ届くか疑問です。やはり食糧、薬品がほしいです」と。最後に苦しみの中で自分をささえていたものは何かの質問に「無ですね。愛するもの、金めのもの、何にもないことが苦しさに耐えられました。欲にとらわれていたらどうなっていたか……」と答えてくれた。

十年ぶりの日本の冬と、はじめて募金に立ったという内藤さんの気持が救援活動をより進めていく上に、力強い糧となると同時に、より皆様方の温かいご協力と援助をお願いしますと、全日仏青が呼びかけている。

WFBY執行委員会

カンボジアも議題に

十二月十四日、タイ国バンコク市のWFBB本部で開催されたWFBB執行委員会と同時に、世界仏教青年連盟の執行委員会に、全日仏青より玉川寛祥師を派遣したが、カンボジア難民救済も議題にあがったので、急拠、永倉理事長以下三名が同会議に出席して、実情把握や救援活動について討議した。

再録板

難民の救済について

仏教界は無力なのか

カンボジア難民キャンプのありさまを取材して以来、頭からはなれないことの一つに、宗教の問題がある。枯れ枝のような足をふんばって必死に哺乳びんに吸いつく孤児の姿を見ながら、あるいはマリアの高熱にふるえ、死を待つばかりの少女の姿を見ながら、難民の救済についてなぜ、日本の仏教界はかくも無力なのかと思った。（中略）過酷な熱帯の環境の中で献身的に働く人々の中に、筆者はキリスト教の奉仕の精神の伝統、というものをはたで感じた▼仏教会の中には、難民問題に強い関心をもつ人もいるだろう。すでに活動をはじめた人がいるかもしれない。だが、現地からみた日本の仏教界は遠い遠い存在だった（中略）▼一枚のむしろがへだてる生と死のはさまに立ち、筆者はしばしば「政治への逸脱を警戒する」という名分のもとに、実は情眼をむさぼっている宗教が、今の日本にはあまりにも多いのではないだろうか」という上原専祿氏の言葉を思い出していた。アジアの同胞のために、日本人はむしろ、難民救済の先頭に立ち、世界に訴える立場にあったはずだ▼難民救済の仕事はしかし、まだまだ続く。（朝日新聞十二月八日朝刊天声人語）

昭和55年1月1日

組織専門委員会開く

全仏大会につき討議

去る十一月二十八日、全仏会議室において組織専門委員会が開催された。五十四年十月茨城において全仏大会が終了したものの、次年度の開催地が未定であり、この点も含めて今後の全仏大会のあり方について討議がなされた。

「今のよう形態で、県仏に基本金が残らないようでは引き受け手はない」・「全仏大会は組織強化の一環として行われてきたが、県仏の組織力の強弱により資金面、人的な面でも差があり、これを考慮に入れるべきである」・「組織強化を目的とした大会の使命は終わったのではないか。新しい形の大会を考へてはどうか」・「従来のような部会制ではなく、テーマ別、議案別の部会編成をとってはどうか」・「県仏から引き受けてもよいという申し出があれば別だが、前のような本山大会をやってはどうか」・「あまり金をかけずに、全仏が主導権をとってやるべきだ。部会（会議）に重点をおいた大会にしては元々の意見が出された。また、日程面でも、一日では時間に余裕がないため、二日制にしてはどうかという意見があった。事務局では、これらの意見を参考にして、来年度の全仏大会の開催地の交渉にあたることになった。

出席者（順不同敬称略）

- 神野・久保瑩・大多喜・桜井・花木・船口・河野・永倉・郡司

昭和五十五年 一月一日発行
一月号 第二五五号

フデイストが成道会

東京フデイストクラブでは、年末恒例の「釈尊成道会記念チャリティーパーティ」を、十二月十八日午後六時より、新宿の京王プラザホテル五階のコンコルドホールルームで盛大に行なった。

当夜は約六百名が出席し、一部記念法要のあと、二部ではビンゴゲームなどを楽しみ、歌手の水前寺清子さんの美声に夜のふけるのも忘れ楽しい一時をすごした。

事務総局録事（十二月）

- 一日 局内会議
- 二日 仏教徒のつどい
- 四日 全仏誌座談会
- 五日 文化会議打ち合せ
- 八日 局内会議
- 十二日 同和問題特別委員会
- 二十一日 機構改革特別委員会
- 二十五日 業務納め

東宝映画

「天平の夢」を推薦

全日本仏教会では、映画「天平の夢」を推薦することになりました。豊を推薦することになりました。今後、各宗、都道府県仏、諸団体に東宝の担当より具体的依頼があると存じますが、それぞれに適宜で判断のうえご協力いただけますようお願い申し上げます。

発行人 齋 潤正治
編集人 安 本利治

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四一七十三
電話〇三（四三七）九二七五

花まつりポスター

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日
花まつり



|| 広く統一してご利用下さい ||

花まつりの行事は年々盛大に行なわれていますが、さらに全国的に浸透せしめるため、全日本仏教会では写真のような統一したポスターを作成、広くご利用頂けるよう頒布しております。

明るい春の野に静かに立って、天と地をさすお釈迦さまの姿は、見る人の心に安らぎを与えることと思います。

左記の要領にて頒布いたしますので各県仏、郡市仏、各寺院、幼稚園、保育園などで広くご利用下さい。

◎サイズ 七四センチ×五二センチ
◎定価 一枚 一百円
送料実費一五十枚以上は送料全仏負担 外国は別途

◎申込先 東京都港区芝公園四一七十三 全日本仏教会 文化部花まつり係

※送付に時間のかかることもありますので、お早めにお申込み下さい。毎年ギリギリの申込みで四月八日に間に合わないことがありますので……。